

# 総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

## 1. 研究課題名

放射性リガンド療法におけるSPECT/CTでの半定量的指標及び吸収線量の関係性の研究

## 2. 研究の対象患者

2025年～2026年の期間において、当院でルタテラまたはプルヴィクト治療を行った方で、以下の選択基準をすべて満たし除外基準のいずれにも該当しない患者さん

### (1) 選択基準

以下の基準を全て満たす方を対象とする

- 1) ルタテラ及びプルヴィクトそれぞれ二回以上の治療を施行できた方
- 2) 年齢・性別不問

### (2) 除外基準

以下のいずれかに抵触する方は本研究に組み入れないこととする

- 1) 何らかの理由でDosimetry中の安静が保てず、体動が生じた方
- 2) その他、研究責任(分担)者が研究対象者として不相当と判断した方
- 3) 治療回数が1回のみの方

## 3. 研究の対象期間

2025年～2026年

## 4. 研究の概要

わが国の神経内分泌腫瘍(NET)の新規患者数は、10万人あたり年間約2.7～3.5人程度と推定される希少がんである。これに対し前立腺がんは男性の癌罹患数1位であり、新規患者数は年間9～10万人と報告されている。放射線リガンド療法(RLT)はNETに対し2021年8月に保険適用となった「ルタテラ」、転移性去勢抵抗性前立腺がん(mCRPC)に対し2025年11月に保険適用となった「プルヴィクト」が、それぞれがん細胞に結合する薬剤(リガンド)と放射性同位元素を結合させ、体内でがん細胞に直接放射線を照射する新しい全身治療として期待されている。

RLTの治療効果は、RLTの途中または完遂後にNETは画像検査で、mCRPCは画像検査や血液検査で確認している。また当院でRLTを行う際、目的部位への治療薬の集積の確認や臓器ごとの被ばく線量確認のために、治療薬からのγ線を利用してDosimetry撮影を行っている。そこでDosimetry撮影の画像を使って算出できる半定量的指標であるstandardized uptake value(SUV)や、臓器ごとの吸収線量の定量値と治療効果との関係性の有無について検討する。

## 5. 研究実施予定期間

2026年5月20日～2027年3月31日

## 6. 研究に用いる試料・情報の種類

〔研究対象者背景〕：年齢、性別、既往歴、病歴、最終診断

〔画像所見〕：CT・MRI・RI・PET検査所見(ペースライン、フォローとも)

〔血液生化学的検査〕：血液検査(PSA値)

## 7. 研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

本研究は既存の日常診療情報を用いる後向き観察研究であることを踏まえ、研究対象者の健康状態等の評価に関する知見が得られた場合でも、研究対象者(又は代諾者)個々に結果説明することはありません。

## 8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(連絡先) 地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・研究責任者：放射線科 山口 晃裕

・臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)